

2002年12月4日

せりょう原稿

衆議院議員 伊藤信太郎

与党自民党の国会議員は師走になると殺人的に慌しい。党税調の税制改正と予算が大詰めを迎えるからである。ここにおける高配を求めて日本全国から社会のあらゆる層から各種要望が豪雨のようにやってくる。どれも切実な要望ばかりである。これに真摯に対応し力の限り答えるのが国民の代表である議員の役目である。かつて「政治」は希少資源の権威的配分であると政治学者イーストンが論じたが、権威的であるかどうかは別として、すべての資源が有限であるのは確かである。ここで悩ましい問題は、利益の相反する二つのグループしかも両方共自民党支持であるグループから、有限な資源を奪いあう全く逆の要望を賜った場合である。正にここでの判断によって党と政治家の真価が問われる。税調ラブソディともいえる熱い議論に参画すると、その血湧き肉踊る政治過程での自民党と党所属の政治家の葛藤と人間力の差異がかいま見える。

(党新聞局次長)